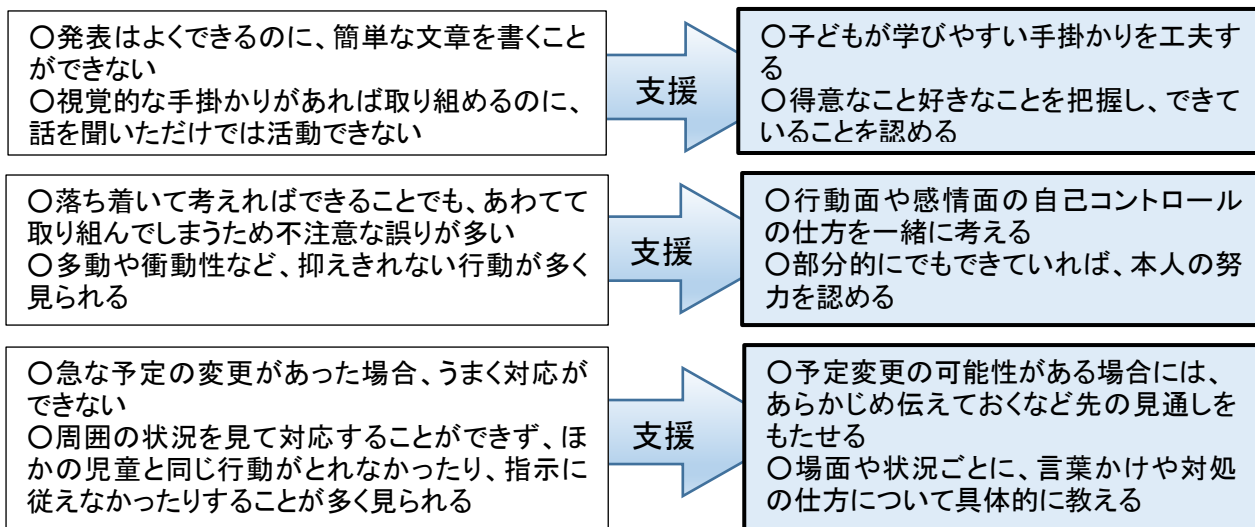


発達障害やその傾向のある児童がいる学級では、学級担任や教科担任は次の2つの視点での対応が求められます。

- ① 「個別支援（個別指導）」に基づく対応…「つまずきやすい」児童に対して、個に即した助言や支援を行う、取り出し授業や補習授業を行う等。
- ② 「集団指導」に基づく対応…「つまずきやすい」児童だけでなく、全ての児童が互いの特性等を理解し合い、助け合って共に伸びていこうとする集団づくりを進める、分かりやすい授業づくりを進める。

集団指導を進める一方で、「困難」を感じている児童に対する個別支援も大切です。発達障害の特徴が見られる児童に対する支援として、次のようなものが考えられます。



バランスのよい集団指導と個別支援

集団を高めることを意識して行う集団指導と、個を高めることを意識して行う個別支援との間には、車の両輪のような関係があります。どちらか一方に偏ることなく状況に応じバランスよく行うことが大切です。

